



新年のごあいさつ

茨城県知事 友末 洋 治

新正年おめでとう存じます。

まずもつてみなさんが元気でお年月を迎えられたことを心から慶祝申し上げます。

昭和33年の初頭にあたり

ことしこそは

- 引続いて豊作となる年
- 関東平野の総合開発計画が新たに出発する年
- 道路は面目を一新する年
- 常磐線電化にとりかかる年
- 商港が初めてお目見えする年
- 原子力発電に目鼻がつく年
- 工業茨城の基本計画ができる年
- 新しい村づくり町づくりは軌道にのる年

などと、いぬ年に対する希望は、次から次へと数限りなく胸に浮んでまいります。

ともかくにも大いに馬力をかけて、よりよい年にしたいと心から念じております。

御承知のように、世界のどの国も、自国の平和と安全を守るために、力の限りを尽して、科学技術の進歩に必死の努力を続けております。世はまさに、科学文明飛躍の時代に、驚くべき速度をもつて突入しております。この世界の進運に対処して、わが日本民族の幸福と繁栄とを増大していくためには、民族の一大結集のうえに科学技術の裏づけが、何よりも必要になっております。

福祉茨城の振興にもまた、科学技術の太い筋金を入れなければならなくなつてまいりました。

ここに、希望と飛躍の年を迎えるにあたり、県民の皆さんの幸福と繁栄とを衷心お祈りして新年のごあいさついたします。

昭和33年元旦



新しい年を迎えて

茨城県統計協会会長
茨城県総務部長 木村 凡夫

明けましておめでとうございます。

ここに明るい希望に満ちた平和な昭和33年の初春を迎え、皆様の御幸福を心からお喜び申し上げます。

さて、昨年は3年に1度行われる事業所調査をはじめ、学校基本調査、農業基本調査、工業統計調査、中小企業総合基本調査、その他各種の調査が実施されましたが、統計関係の皆様には諸種の困難な条件をよく克服して、特別の御精励と御協力をいただき、ここに優秀な実績を取めることができましたことを心からお礼申し上げます。

また、昨年は統計法が施行されて丁度10周年を迎えましたが、終戦後制度および技術の両面において著しい進歩を遂げた調査統計事業の輝かしい足跡を顧み、まことに感慨無量なものがあります。そもそも統計法は統計の真実性を確保し、統計調査の重複を除き、統計の体系を整備して統計制度の改善発達を図るために制定されたもので、統計行政の基本法であり、わが国における統計事業の発展の歴史もまた統計法とともに歩んできたといつても過言ではありません。

すなわち過去10年の間、中央、地方を通ずる統計機構の整備、統計の正確度の向上、統計理論とその応用の進歩、あるいは学校および企業経営における統計利用の普及はまことにめざましいものがあり、各種行政施策の樹立推進と国民生活水準の向上のために、大きな役割を果たしてまいりました。しかし地方自治体における調査統計事業と統計の利用価値に対して、まだまだ軽視の風潮が残っていることはまことに遺憾であり、新市町村建設計画や新農山漁村振興計画の遂行にも大きな支障をきたすのではないかと思います。

どうか皆様には今後も調査統計事業はあくまでも地方自治体における行政施策の基礎資料を作成する重要な使命と責任を持つていることをよく自覚して、常に統計機構の拡充強化と調査技術の研さんに努め、統計が政治、経済、社会の各般におよぼす影響が非常に大きいことを再認識されて、相互に融和協調の実をあげ、統計思想の普及と統計の質の向上を計り、本県における調査統計事業の円滑な運営と発展のために御尽力下さるようお願い申し上げます。